

令和5年2月21日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報告）

ア 令和5年度発達支援学級新設予定校について

※教育総務課就学支援担当課長から資料に基づき説明

（安田委員）新設する発達支援学級の児童生徒数を教えていただきたい。

（教育総務課就学支援担当課長）現時点で西小4人、西都台小4人、伊佐見小5人、豊西小6人、船越小4人、東部中3人、都田中2人、春野中1人の予定である。

（安田委員）新設する発達支援学級は、入級者が1人か2人かと思っていたが、6人という学校もある。新生徒だけでなく在校生でも入級したい児童生徒がいるということか。それだけニーズがあるということか。

（教育総務課就学支援担当課長）発達支援学級が新設されるなら入級したいという在校生の児童生徒や、近隣校から転入を希望する児童生徒もいる。

イ 適応指導教室の呼称変更について

※指導課教育総合支援担当課長から資料に基づき説明

（安田委員）この名称にした経緯を教えてください。他に候補となる名称もあったのか。

（指導課教育総合支援担当課長）サポート教室という名称や、もう少しほんわかした名称など複数検討したが、自立に向けて学んでほしいという思いを込めてこの名称とした。

（安田委員）全国的に「適応指導」という名称を使用しているのか。浜松市では、「特別支援」を「発達支援」と言い換えているが、使い分けなどの点でメリットデメリットがある。「適応指導」も同様に全国的に使用している言い方であれば変更は慎重に行う必要があると感じる。

（指導課教育総合支援担当課長）政令指定都市20市のうち15市が適応指導教室という名称以外に変更している。令和4年6月の文部科学省通知では、適応指導教室という呼称について、不登校児童生徒や保護者の抵抗感を減らし親しみやすいものをするため各教育委員会で工夫した名称に変更することを促す通知が発出されている。

ウ 「令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」浜松市の結果（概要）について
※指導課長から資料に基づき説明

（神谷委員）運動やスポーツへの意識に関する調査結果について、「1週間 420分以上の運動をしている」の質問について、基準がどう定められたか不明だが、中学生に関しては部活動があるため1日1時間以上の運動している生徒が多いと思うが、小学生は基準以上の運動をすることが困難ではないか。子供から話を聞くと、昼休みは体育館が解放されていなかったり、放課後は近隣の公園は芝生があって、子供が運動や遊びをすることができなかつたりするようである。さまざまな制限がある中で、1週間に420分以上の運動をするためにはどうすれば良いか。平均値をあげるための取り組みは何が効果的か。

（指導課長）学校の生活の中で運動の機会を確保することが非常に難しい状況である。昼休みに体育館の開放をしている学校もあるが、ケガの防止や安全面から教員が立ち会うことになっている。

運動の機会を増やすため、昼休みに運動の機会を確保するよう呼びかけるとともに、体育の授業を充実させることが重要と考えている。本市は「体育の授業は楽しい」「運動やスポーツをすることは好き」と回答した児童生徒の割合が全国平均より高い傾向にあることから、日常生活の中で運動やスポーツに親しむ時間を設ける意欲を育てていくことが大切である。

資料に記載はないが、「学校の運動部や地域のスポーツクラブ、スポーツ少年団や習い事に入っているか」の質問について、小学校男子の全国平均が27.2%に対して浜松市は48.7%と高い値となっている。女子も同様の傾向が見られることから運動の機会は比較的確保されているとみられるが、「1週間420分以上運動しているか」の調査結果に結び付いていない。運動好きの子供の体力の合計点が良い傾向はこれまでの調査結果でわかっていることだが、学習の時間以外のスクリーンタイム（ゲームなど）と体力の合計点との相関関係は今のところないものの、スマホやゲームに多くの時間を費やす子供もいるため、その時間の一部を運動に充てられるように体を動かすことの楽しさを学校で伝えられたら良いと思っている。

（神谷委員）子供たちが運動をする環境は整っていると思う。他地域に比べスイミングスクールに通っている子供も多いと聞いている。それでも1週間420分以上という基準がやはり難しいということかもしれない。

（鈴木委員）運動とスポーツの違いは何か。

（指導課長）文部科学省の解釈では、運動は体を動かす遊びを含むものである。

(鈴木委員) 登校は運動に含まれるか。

(指導課長) 子供が回答しているため、恐らく運動には含めずに回答していると思われる。

(田中委員) 体育の授業を視察した際など、タブレット型端末を使用して楽しく体育の授業に参加している様子が見られ、それが授業改善に関する調査結果に結びついたのでないかと思う。一方で、動画等を活用した授業での体験と、運動時間や運動能力の結果が特に女子は結びついていないようである。浜松市は部活動に活発に取り組んでいるが、今後地域移行してどのような変化があるのか注視する必要があると感じている。

(黒柳委員) 授業で体を動かす楽しさを伝えていくというお話があったが、家庭でも家族でコミュニケーションをとりながら健康について考える時間を設けることが重要になるのではないか。

(指導課長) 家庭への啓発や周知も必要だと考えている。

(非公開)

エ 博物館の資料管理に係る職員の処分について

オ 令和5年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制の基準について

カ 令和5年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制基準日について